

固定運動遊具による

幼児の遊びの発達についての実験的研究 (6)

——安全に関する理解度について——

岡 本 卓 夫
石 川 豊 子

九、雲 梯 遊 び

雲梯遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第九表に示す如く、ことば使用では、理解している方が、行動では、理解していない方が多くなっている。だが、全体的に、理解、不理解という点では、両者半々の頻数を示しておる。

しかし、理解していることばは、各年令共女児に多く、「押しではだめよ」とか「ちょっと待って」など、先ず自分自身の安全ということを意識して、危険な状態になる前に、防止的にそれらを発している場合が多い。かかる意識は、年令と共に増加しておる。

ところが、理解していない言・動は、各年令共男児に多く、「手ばなし」とか「足をひっぱる」など、他の子どもへの危険ということとはあまり考えず、自己中心的、スリリングな言・動が多い。しかして、かかる傾向も、年令と共に増加しておる。

かく考えてみると、この遊具における安全に関する問題は、四歳

児および女児においては、さほど心配もいらなそうと思うが、やはり、五、六歳の男児では、一応注意することが必要であろう。

しかし、この遊具は、懸垂力や腹筋力が十分でなくては遊べないし遊びにあまり変化がもたせないという欠点もあって、彼らには余り好まれておらず、したがって使用率も少ない。

だから、危険な場面も比較的少なく、指導にあたっては、先ず、五、六歳の男児に注意し、上側にはあまり上がらせないようにさせたり、ひっぱったりさせない程度で、安全な指導ができるのではないかと思われる。

一〇、固 定 円 木 遊 び

固定円木遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度は、第一〇表に示す如く、言・動共に理解していない方が多くなっている。

しかし、理解している言・動では、各年令共女児に多く、「押し手ばなし」とか「危険とみるやすぐ下りる」など、先ず自分の安全

ということを意識して、危険におかされる前の防止の言・動が多くなっている。しかし、ことば使いは年令と共に増加しているが、行動は逆に減少している。このことは、四歳児は「しゃがんでいる」など、初めから安全な行動をとっているの、喋る必要もないが、五、六歳にもなると活動的になってくるし、さらに女兒は、平衡感覚が発達してきて、これでの遊びを好むようになるから、そこで女兒特有の用心深さと相まって、かかる防止のことが多くなってくるのだと考えられる。ところが、理解していない言・動は、各年令共男児に多く、「落っこ」とか「割りこみをする」など、他の子どもの危険ということはほとんど意識せず、自己中心的、危険な言・動が多い。しかしてこれらは、五、六歳になって激増している。

かく考えてみると、この遊具遊びにおける安全に関する問題は、先ず、四歳児はいいとして、五、六歳児では、男児はもちろんのこと、女兒においても活発に使うようになるから、注意する必要がある。だが、何といっても、やはり、五、六歳の男児は、荒々しい行動をするから十分注意することが肝要である。

したがって、これが遊具での安全な指導するには、年令別に使

用させてやるとか、男・女別に使用させるようにしてみることも一試案だと思われるが、元来、この遊具は、地面に低く固定されていて、子どもたち誰でもがごく無造作に上がったたり、下りたり、渡ったりすることができるので、その時々々の接触に注意するよう、すなわち、他の子どもにさわったり、他の子どもをついたり、あるいは割りこみなどさせないよう（特に五、六歳の男児に）指導しておくば、先ず安全な指導ができるのではないかと思われる。

分 類	項 目	4 才		5 才		6 才		計	
		男	女	男	女	男	女		
理解している	上がらしてやろうか	1		1				2	
	そんなことしたら危ない				1			1	
	おそろしい、下ろして!				1		1	2	
	上がり方教えてやろうか			1				1	
	そろそろ行けよ					1		1	
	あがらせて		1				1	2	
	のいておれ、危ないぞ					1		1	
	押してはだめよ		1				1	2	
	そこへ上がっていくぞ			1				1	
	ちょっと待ってよ					2		2	4
計		1	2	3	4	2	5	17	
行 動	手元、足元に注意しながらゆっくり上を渡る				1		1		2
	計	0	0	1	0	1	0		2
理解していない	空中ぶらんこしよう				1				1
	手ばなしでこい				1		2		3
	早く上がってよ	1	1		1				3
	こら! くすぐるぞ				1				1
	早くのけ						1		1
	計	1	1	3	1	3	0		9
行 動	とび下りる				1		1		2
	上で片脚をふり回す				1				1
	進い越していく(上側で)				1		2		3
	足をひっぱる	1			1		2		4
	計	1	0	4	0	5	0		10

第9表 雲梯遊び

以上二〇種の各遊具について、彼らの安全に関する理解の程度や、それが安全な指導上の注意について、一応具体的にのべてみたが、さらに、固定運動遊具全般における彼らの安全に関する理解の程度をみるために、それぞれ一〇種の遊具で発生したすべての言・動を、年令別、発達のなまどめてみると、第一一表—一四表に示す如くである。これらのことから、固定運動遊具全般における彼らの安全に関する理解の程度は、先ず、

〈四才児では〉

男児に、理解してない行動が少しみられるが、全体的には、理解している方が多くなっている。しかし、これは、理解しているとみるよりも、むしろ、四歳児は、身体的諸発達が十分でないのと、その上、年長児に何時も遊具を独占されていて、これらになれる間も少ないから、自然、かかる遊具遊びに臆病的になっているというようなことから、かかる結果がでたのではないかと解する方が、むしろ妥当ではなからうか。

したがって、四歳児の場合は、常に教師がそばにいて、彼らが安心して遊べるようにしてやるべきである。次に

分類	項目	4才		5才		6才		計	
		男	女	男	女	男	女		
理解している	ことば使い	寄ってきたら危ない			1			1	
		押すんなしよ			3		2	5	
		ゆるくつけ！ 危ないぞ			1		2	3	
		割りこみ危ない			1		2	3	
		しゃがんでいた方が安全だ					1	1	
	計	0	0	1	5	0	7	13	
	行動	しゃがんでいる	2	3			1		6
		危険とみるやすぐ下りる		1		2		1	4
		四つ這いになる		1					1
		円木に股がっている		1		1		1	3
計		2	6	0	3	1	2	14	
理解していない	ことば使い	寄ってきたらつき落すぞ			1		1		2
		落っこせんか			2		2		4
		立ってしよう			1		1		2
		早く歩いて						1	1
		この上からとび合せんか			1				1
		この上で走りっこしよう			1		2		3
		割りこみした			1	2		3	6
		計	0	0	7	2	6	4	19
	行動	つき落っこをする	3		3		5		11
		たたき合いをする					1	1	2
		片脚立ちでふざける		1					1
		円木上を両脚でとぶ	2		2		1		5
		割りこみをする			4	3	7	4	18
後から押す					3		2	1	6
計	5	1	12	3	16	6	43		

〈五才児では〉

女児の場合、言・動共に四歳児より少なくなっているが、男児の場合は、理解してない言・動が、四歳児よりきわめて多くなっている。すなわち、男児は、この頃から遊具にもなれ、それに興味ももってくるし、加うるに活動も活発になってきて、全く自己中心的荒々しい行動に無中になってくるので、自己および他人の「安全」ということには、ほとんど無意識になるのだと思われる。だが

第10表 固定円木遊び

第 11 表 4 才 児

分類	遊具名 性	鉄 棒		す べり台		ぶ らんこ		ジャ ングルジム		シー ソー		太 鼓橋		回 転台		遊 動橋		雲 梯		固 定円木		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		理 解	ことば	2	1	1	0	3	5	0	1	2	5	3	3	8	4	1	0	1	2	0	0
3				1		8		1		7		6		12		1		3		0		42	
行 動	2		1	0	3	4	9	5	5	0	1	4	5	0	1	3	0	0	0	2	6	20	31
	3		3		13		10		1		9		1		3		0		8		51		
不 理 解	ことば	0	1	1	1	1	0	0	0	2	0	3	3	5	0	0	0	1	1	0	0	13	6
		1		2		1		0		2		6		5		0		2		0		19	
	行 動	2	1	1	1	13	5	1	0	2	0	6	5	5	1	4	0	1	0	5	1	40	14
		3		2		18		1		2		11		6		4		1		6		54	

第 12 表 5 才 児

分類	遊具名 性	鉄 棒		す べり台		ぶ らんこ		ジャ ングルジム		シー ソー		太 鼓橋		回 転台		遊 動橋		雲 梯		固 定円木		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		理 解	ことば	2	4	2	1	0	6	0	0	3	5	3	5	10	6	3	1	3	4	1	5
6				3		6		0		8		8		16		4		7		6		64	
行 動	2		0	0	2	5	9	0	2	1	0	4	6	0	1	3	1	1	0	0	3	16	24
	2		2		14		2		1		10		1		4		1		3		40		
不 理 解	ことば	0	0	6	0	2	1	7	0	5	0	6	3	20	0	5	0	3	1	7	2	61	7
		0		6		3		7		5		9		20		5		4		9		68	
	行 動	2	2	10	0	12	4	3	0	8	1	8	3	12	2	9	0	4	0	12	3	80	15
		4		10		16		3		9		11		14		9		4		15		95	

ら、女兒の場合、男児に遊具を独
占されて、あまり遊べなくなるか
ら、かかる結果がでてきたのだと
思う。したがって、五歳の男児が
遊ぶ時は、特に注意しておくこと
が必要である。

〈六才児では〉

ここにおいても、やはり男児の
理解してない言・動が多いが、そ
の反面、理解したことばが多くな
ってきている。また、女兒に少し
理解してない言・動が増してきて
いるが、これは、六歳になって活動
が活発になってきたからだと思わ
れる。

しかし、全体的にみて、行動で
は、五歳児より理解してない面も
多少多くなっているが、ことば
使いでは、五歳児より理解して
いる面が多くなっている。その
差を、四歳と五歳との間にみた差
と比較考え合わせてみると、この
頃から、安全に関する理解の芽生
えができてはじめるのではないかと

第 13 表 6 才 児

遊具名 分類	性別	鉄 棒		す べり 台		ぶ ら ん こ		ジ ャ ン グ ル ジ ム		シ ー ソ ー		太 鼓 橋		回 転 台		遊 動 橋		雲 梯		固 定 円 木		計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		理 解	こ と ば	1	3	8	2	1	4	1	3	2	6	2	7	24	11	11	5	2	5	0	7
	行 動	4		10		5		4		8		9		35		16		7		7		105	
不 理 解	こ と ば	1	0	2	2	4	8	0	0	1	2	5	7	0	1	4	1	1	0	1	2	19	23
	行 動	1		4		12		0		3		12		1		5		1		3		42	
	こ と ば	0	0	4	1	3	2	2	0	5	2	9	1	6	2	3	0	3	0	6	4	41	12
	行 動	0		5		5		2		7		10		8		3		3		10		53	
不 理 解	こ と ば	5	8	14	2	11	3	2	0	10	2	11	6	6	9	12	3	5	0	16	6	92	39
	行 動	13		16		14		2		12		17		15		15		5		22		131	

遊具名
分類

性別

第14表 固定運動遊具遊びにおける言・動からみた安全に関する理解の発達(%)

遊具名 分類	性別	4 才		5 才		6 才	
		男	女	男	女	男	女
		理 解	こ と ば	35	35	20	28
	行 動	70		48		66	
不 理 解	こ と ば	19	30	12	18	11	13
	行 動	49		30		24	
	こ と ば	20	10	47	5	26	8
	行 動	30		52		34	
不 理 解	こ と ば	32	13	59	11	53	23
	行 動	51		70		76	

註 すべての言・動をそれぞれ100とし、それを理解、不理解に分けて、年令別にパーセントであらわした。

結 論

以上のことから、固定運動遊具遊びにおける子どもの安全に関する理解の程度を簡単にまとめてみると、四歳児は、身体的にまだ未発達であるのと、遊具に慣れていないのとで、臆病的で用心深く、五歳児になると、遊具に興味をもちはじめ、活動も急激に活発になり、その勢いにまかせて、安全を意識しない危険な行動が多く、六歳児にもなると、遊具にもなれ、五歳時代の活発な経験から得た安全に関するいろいろの問題を、ようやく意識しながら遊べるようになるといえよう。

しかし、これらは、すべて彼ら自身が活動の主体になった時にいえる場合が多く、客体的、傍観的立場にある場合には、ほとんど安全を意識していない場合が多いといえる。

最後に、この実験に御協力下さった付属幼稚園、助任幼稚園の諸先生方に心から感謝の意を捧げます。

△岡本(徳島大学) 石川(徳島・相川保育所)▽

* * *